

Point

J R 東海 大阪修繕車両所分会分会情報

No. 77 2010. 10. 28.

発行責任者 坂東 貞男

編集責任者 教 宣 部

シリーズ『リニア中央新幹線ってどうなの?』⑧

電磁波対策の基本はあくまで

発生源から離れ被曝時間を減らすこと!

シリーズ⑦に引き続き、超伝導リニア方式で建設されようとしている中央新幹線の強力な電磁波の問題です。

皆さんご承知の通り目に見えない電磁波が健康に害を及ぼすことは間違いのないと思われませんが、現在のところどれだけの電磁波で健康被害を起こすかという確かなものはないようです。

従って、電磁波の基準も各国でまちまちなのが現状です。

そのため電磁波問題の専門家は「学校、幼稚園、保育園、住宅、病院の近くに電磁波発生源としての送電線、変電所、基地局の建設を規制すべき、また建設にあたっての住民同意の確率も大切です。個人においても身のまわりの電気製品や電気配線にもっと注意を払うべきであり、基本はあくまで発生源から離れることと被曝時間を減らすことである」と言っています。

未来においても絶対安全を保証できるのか!?

普段、通勤等で使うJR在来線の快速等では、車内アナウンスで優先座席付近での携帯電話について「付近では電源を切るよう」呼びかけています。これは植込み型医療機器(ペースメーカー)の装着者に携帯電話の発する電波(電磁波)が及ぼす影響を防止するためです。勿論JR東海の在来線でも呼びかけられており、電磁波の危険性は十分認識していると思われれます。

現在、会社の定期健康診断ではアスベスト検診も行われており、受診されている人も多いと思いますが、アスベストの危険性が社会問題化するまで断熱材、電気絶縁材、ブレーキライニング材等、長期間かつ大量に用いられてきました。

全く電磁波とは違いますがアスベストのように真の危険性が明らかになってからでは手遅れなのです。

JR東海は、超伝導リニア方式を目指す以上、未来においても超伝導リニアの電磁波に関して、絶対安全なことを保証できるように、強力な電磁波の科学的検証を十分に実施し、公表していくべきだと思えます。